

# 定期作況報告

令和6年10月  
(10月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

9月下旬：最高気温はやや低く、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は平年よりやや多く（平年比129%）、日照時間は平年並であった（平年比85%）。

10月上旬：最高気温は平年並で、最低気温は高く、平均気温はやや高かった。降水量は平年並で（平年比106%）、日照時間はやや少なかった（平年比77%）であった。

10月中旬：最高気温は高く、最低気温はやや高く、平均気温は高かった。降水量は多く（平年比167%）、日照時間はやや多かった（平年比121%）。

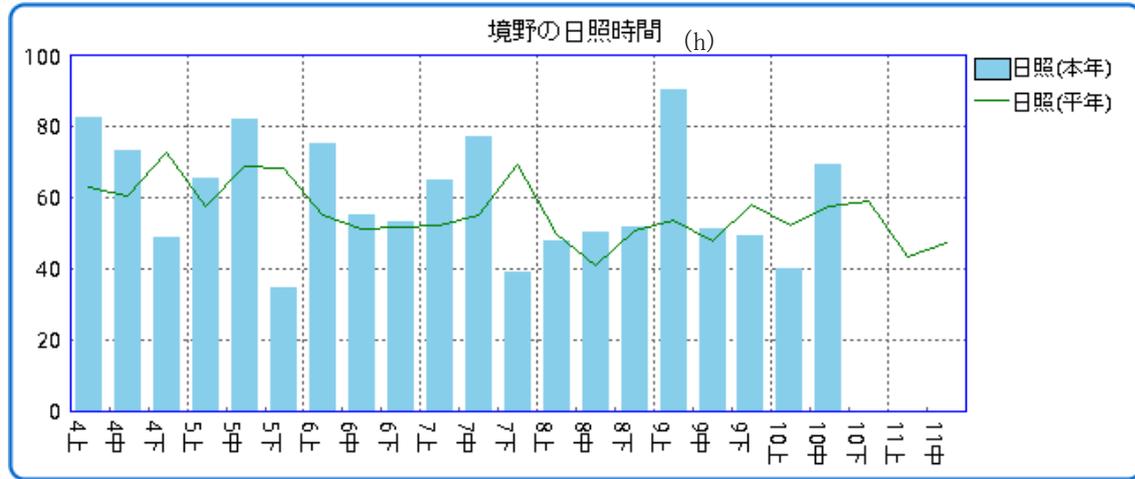
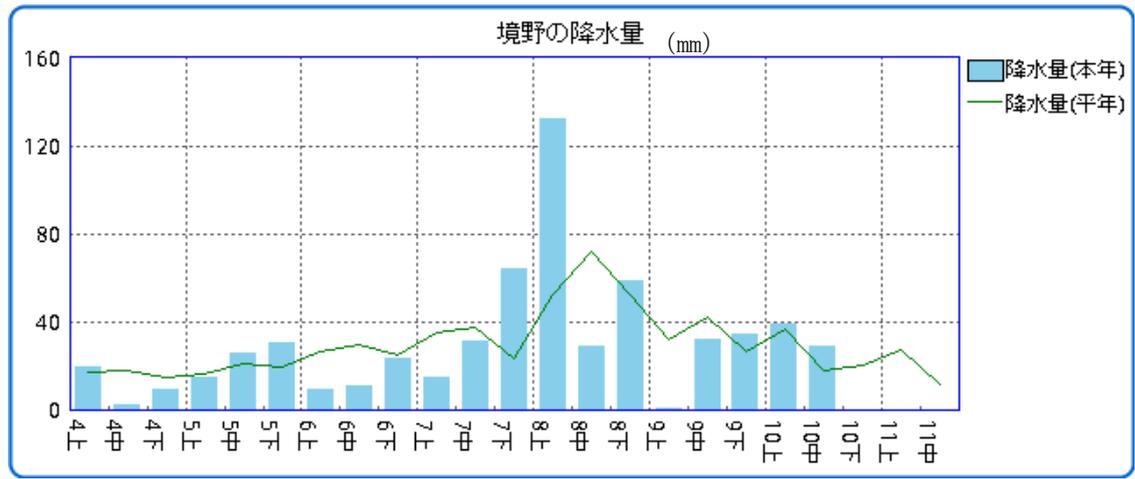
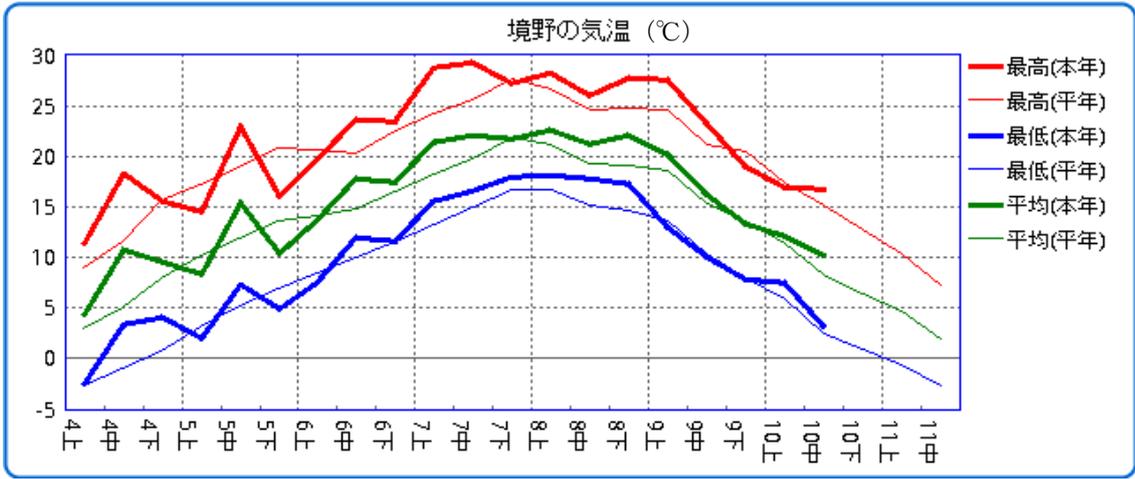
以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温はやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

気象表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	13.3	13.7	-0.4	18.9	20.4	-1.5	7.8	8.0	-0.2
10月 月上旬	12.1	11.4	0.7	17.0	17.4	-0.4	7.5	5.9	1.6
10月 中旬	10.2	8.3	1.9	16.7	15.1	1.6	3.2	2.4	0.8
平均値	11.9	11.1	0.7	17.5	17.6	-0.1	6.2	5.4	0.7

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	34	26.4	7.6	49.2	58.1	-8.9
10月 月上旬	39	36.7	2.3	40.3	52.1	-11.8
10月 中旬	29	17.4	11.6	69.7	57.4	12.3
合計値	34	26.8	7.2	53.1	55.9	-2.8

注) 観測値は置戸町境界のアメダスによる（てん蔵の定期作況気象情報）。10年平均は前10か年の平均値である。



## 1) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より7日遅い5月23日に行った。播種直後は気温が低かったものの6月に入り持ち直し、十分な降雨もあったことから、出芽期は平年より2日遅い6月6日であった。出芽期以降は気温が高く推移し、6月20日現在の草丈は平年より0.4cm高く、葉数は0.2枚少ない。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	6月下旬以降平年より高温で推移し、7月20日現在の草丈は平年より7.1cm高かったものの、葉数は13.1枚と平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	7月下旬以降気温は平年並から高く推移した。平年に比べ開花期は1日早く、抽糸期は同日であった。8月20日現在の草丈は平年より2.1cm低く、葉数は0.4枚多く、平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日	平年並	気温は平年より高く推移しており、登熟は順調に進んでいる。9月20日現在の稈長は244cmと平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
10月20日	平年並	収穫期は平年より1日早い9月25日であった。子実の熟度は黄熟中期と平年よりやや早く進んでいた。平年に比べ乾物茎葉重は少なく、乾物雌穂重はやや多く、総体の乾物率は2.4ポイント高かった。乾物総重は平年比96%、推定TDN収量は98%と平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

## 生育データ

調査項目	KD320			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.23	5.16	7	
出芽期 (月・日)	6.06	6.04	2	
開花期 (月・日)	7.31	8.01	△ 1	
抽糸期 (月・日)	7.31	7.31	0	
収穫期 (月・日)	9.25	9.26	△ 1	
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初期～ 黄熟中期	-	
草丈 (cm)	(6月20日)	29.6	29.2	0.4
	(7月20日)	188.3	181.2	7.1
	(8月20日)	277.7	279.8	△ 2.1
稈長 (cm)	(9月20日)	244	252	△ 8
葉数 (枚)	(6月20日)	4.6	4.8	△ 0.2
	(7月20日)	13.1	12.8	0.3
	(8月20日)	15.6	15.2	0.4
生総重 (kg/10a)	5754	6564	△ 810	
乾物茎葉重 (kg/10a)	826	997	△ 171	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1150	1066	84	
乾物総量 (kg/10a)	1976	2063	△ 87	
同上平年比 (%)	96	100	△ 4	
推定TDN収量 (kg/10a)	1458	1486	△ 28	
同上平年比 (%)	98	100	△ 2	
総体の乾物率 (%)	34.3	31.9	2.4	
乾雌穂重割合 (%)	58.3	51.7	6.6	
有効雌穂割合 (%)	100	100	0.0	

注1) 一昨年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前5か年の平均。

注2) 推定TDN収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

## 2) 大豆

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より2日遅い5月22日に行った。播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より4日遅い6月8日であった。出芽後は気温が平年並から高く、日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移した結果、開花始は平年より2日早い7月15日であった。一方、降水量はやや少なかったため、分枝数は平年と比べてやや多いものの、主茎長および本葉数は平年並である。以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	生育は順調に進み、主茎長および主茎節数は平年並であるが、分枝数および着莢数は平年をやや上回っている。以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	やや良	成熟期は平年より11日早い9月11日であった。主茎長、主茎節数、分枝数および着莢数は平年をやや上回り、一莢内粒数は平年並である。以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
10月20日	平年並	着莢数は平年をやや上回ったが（前報）、百粒重はやや軽く子実重は平年比102%であった。屑粒率は平年よりもやや低かった。以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

## 生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.20	2
出芽期	(月.日)	6.08	6.04	4
開花始	(月.日)	7.15	7.17	△ 2
成熟期	(月.日)	9.11	9.22	△ 11
主茎長 (cm)	(6月20日)	11.2	9.2	2.0
	(7月20日)	53.0	50.3	2.7
	(8月20日)	64.0	61.9	2.1
	(9月20日)		63.5	
	(成熟期)	68.0	63.0	5.0
本葉 数(枚)	(6月20日)	1.7	0.9	0.8
	(7月20日)	7.2	7.9	△ 0.7
主茎節数	(8月20日)	10.0	10.2	△ 0.2
	(9月20日)		10.1	
	(成熟期)	10.5	10.1	0.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.4	4.7	0.7
	(8月20日)	6.2	5.4	0.8
	(9月20日)		5.0	
	(成熟期)	5.6	4.9	0.7
着莢数 (個/株)	(8月20日)	85.5	82.1	3.4
	(9月20日)		75.8	
	(成熟期)	81.8	75.5	6.3
一莢内粒数		1.87	1.93	△ 0.06
子実重(kg/10a)		372	366	6
同上平年比(%)		102	100	
百粒重(g)		29.6	32.7	△ 3.1
屑粒率(%)		0.7	1.7	△ 1.0
品質(検査等級)			2上	-

注1) 平年値は前7か年中、30年(最凶)、令和5年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

## 3) 小豆

作 況：良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より1日遅い5月22日に行った。播種後の低温で経過したため、出芽期は平年より2~3日遅い6月12日であった。出芽後は高温で日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移したが、降水量はやや少なかつたことから、主茎長は平年をやや下回り、本葉数および分枝数は平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	開花前の気温が高く推移した結果、開花始は平年より3~4日早い7月21日であった。主茎長および主茎節数は平年を上回り、着莢数は平年を大きく上回るが、分枝数は平年を下回っている。「エリモショウズ」および「きたろまん」のいずれも倒伏が発生している。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	やや良	成熟期は「エリモショウズ」では平年よりも13日早い9月15日、「きたろまん」では14日早い9月13日であった。いずれの品種も主茎長および主茎節数は平年を上回り、分枝数は平年を下回った。一莢内粒数は「エリモショウズ」では平年をやや上回り、「きたろまん」では平年並で、着莢数はいずれの品種も平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
10月20日	良	いずれの品種も着莢数は平年を上回り（前報）、百粒重は軽いが子実重は「エリモショウズ」で平年比114%、「きたろまん」で平年比117%であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。

## 生育データ

調査項目	エリモショウズ			きたろまん			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.21	1	5.22	5.21	1	
出芽期 (月.日)	6.12	6.09	3	6.12	6.10	2	
開花始 (月.日)	7.21	7.25	△ 4	7.21	7.24	△ 3	
成熟期 (月.日)	9.15	9.28	△ 13	9.13	9.27	△ 14	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.4	3.4	0.0	3.4	3.3	0.1
	(7月20日)	14.0	18.6	△ 4.6	15.0	17.6	△ 2.6
	(8月20日)	74.0	63.1	10.9	90.0	63.7	26.3
	(9月20日)		68.6			72.6	
	(成熟期)	84.7	67.4	17.3	100.7	68.9	31.8
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.6	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3
	(7月20日)	6.4	6.7	△ 0.3	6.4	6.4	0.0
主茎節数	(8月20日)	16.2	14.2	2.0	16.2	13.4	2.8
	(9月20日)		14.3			13.7	
	(成熟期)	17.3	14.0	3.3	16.6	13.5	3.1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.1	2.3	△ 0.2	2.2	2.0	0.2
	(8月20日)	2.5	4.3	△ 1.8	2.1	3.3	△ 1.2
	(9月20日)		3.7			2.9	
	(成熟期)	2.4	4.3	△ 1.9	2.0	3.4	△ 1.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	65.9	38.7	27.2	57.3	36.4	20.9
	(9月20日)		51.2			49.7	
	(成熟期)	67.4	53.2	14.2	58.0	51.0	7.0
一莢内粒数	6.65	6.27	0.38	6.29	6.38	△ 0.09	
子実重(kg/10a)	423	372	51	429	368	61	
同上平年比 (%)	114	100		117	100		
百粒重 (g)	12.8	15.1	△ 2.3	15.2	16.8	△ 1.6	
屑粒率 (%)		9.1			8.4		
品質 (検査等級)		4上	—		4上	—	

注1) 平年値は前7か年中、令和5年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 4) 菜豆

作 況：不良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より2日遅い5月22日に行った。播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より9日遅い6月11日であった。出芽後は高温で日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、草丈、本葉数はともに平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移したが、降水量はやや少なかったことから、開花始は平年と同日の7月7日であった。草丈および分枝数は平年をやや上回っているが、本葉数はやや下回っている。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	生育は順調に進み、主茎節数は平年をやや下回るが、草丈、分枝数および着莢数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	不良	成熟期は平年より5日早い8月26日であった。草丈および分枝数は平年をやや上回ったが、主茎節数はやや下回った。着莢数は平年比106%とやや上回ったが、一莢内粒数は平年比87%と少なく、百粒重も平年比95%とやや軽かったため、子実重は平年比83%であった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
10月20日	不良	子実重は平年比83%と低収で（前報）、成熟期を迎えた8月下旬の降雨により変色粒（色流れ粒）が発生したため、屑粒率は平年よりも高かった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。

## 生育データ

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.20	2	
出芽期 (月.日)	6.11	6.02	9	
開花始 (月.日)	7.07	7.07	0	
成熟期 (月.日)	8.26	8.31	△ 5	
草丈 (cm)	(6月20日)	10.0	11.1	△ 1.1
	(7月20日)	45.3	38.2	7.1
	(8月20日)	46.0	40.8	5.2
	(成熟期)	45.1	41.2	3.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.1	1.1	0.0
	(7月20日)	3.2	3.9	△ 0.7
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.4	△ 0.4
	(成熟期)	5.1	5.4	△ 0.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6.1	5.6	0.5
	(8月20日)	6.5	5.4	1.1
	(成熟期)	6.4	5.5	0.9
着莢数 (個/株)	(8月20日)	23.7	20.2	3.5
	(成熟期)	21.4	20.2	1.2
一莢内粒数	2.47	2.83	△ 0.36	
子実重 (kg/10a)	257	309	△ 52	
同上平年比 (%)	83	100	△ 17	
百粒重 (g)	61.5	64.6	△ 3.1	
屑粒率 (%)	26.9	11.9	15.0	
品質 (検査等級)		4上	—	

注1) 平年値は前7か年中、令和4年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 5) 馬鈴しょ 作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	植え付けは平年よりも1日早い、5月10日に行った。植え付け後の5月中旬～下旬の平均気温は変動が大きかったが、両品種の萌芽期は平年並であった。昨年的高温の影響で休眠が浅く、植え付け前の浴光催芽期間中（4月）の気温が高かったことから、両品種の茎数は平年よりも多かった。萌芽後の気温は平年並であったことから、両品種の茎長は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	萌芽後の6月中旬～下旬の気温が平年よりも高かったことから、開花始は「男爵薯」で3日、「コナユタカ」で2日平年より早かった。6月下旬以降の降水量がやや少なかったことから、生育が停滞し、茎長は「男爵薯」が平年並、「コナユタカ」は平年よりも短かった。茎数は「男爵薯」が多く、「コナユタカ」で平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	「男爵薯」の茎長は平年並であり、黄変が進んでいる。「コナユタカ」の茎長は平年よりもやや短かった。茎数は両品種とも並～やや多かった。塊茎肥大が進む7月上旬以降は高温傾向であったものの、降雨もあったことから、上いも重は両品種とも平年並であった。でん粉価は、「男爵薯」は平年よりもやや低く、「コナユタカ」は平年よりもやや高かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日	平年並	「男爵薯」の枯ちよう期は平年よりも8日早かった。上いも数は平年よりも多く、上いも平均重はやや軽かった。上いも重は平年比104%で、でん粉価は平年並であった。「コナユタカ」の上いも重は平年比88%で平年よりも少ないが、でん粉価は平年よりも2.7ポイント高かったことから、でん粉重は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
10月20日	平年並	8月上旬～9月中旬まで高温で推移したことから「コナユタカ」の枯ちよう期は平年よりも13日早かった。上いも数は平年並であったが、高温および枯ちよう期が早まったことが影響し、上いも平均重は平年よりもかなり軽かった。でん粉価は平年より1.2ポイント高かったが、上いも平均重は平年比88%、でん粉重は平年比94%で平年よりもやや劣った。 前報の通り「男爵薯」の上いも収量は平年比104%とやや多収であったことから「コナユタカ」および「男爵薯」両品種の収量を鑑み、目下の作況は「平年並」である。

## 生育データ

調査項目	男爵薯			コナユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月・日)	5.10	5.11	△ 1	5.10	5.11	△ 1	
萌芽期 (月・日)	5.27	5.28	△ 1	5.30	5.31	△ 1	
開花始 (月・日)	6.24	6.27	△ 3	6.30	7.02	△ 2	
枯ちよう期 (月・日)	8.25	9.02	△ 8	9.30	10.13	△ 13	
茎長 (cm)	(6月20日)	25	25	0	16	15	1
	(7月20日)	58	55	3	72	81	△ 9
	(8月20日)	56	56	0	93	104	△ 11
茎数 (本/株)	(6月20日)	5.3	3.9	1.4	3.1	2.4	0.7
	(7月20日)	5.5	4.5	1.0	3.0	2.7	0.3
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	5162	5140	22	4140	3994	146
	(9月20日)	5462	5227	235	5164	5873	△ 709
でん粉価 (%)	(8月20日)	14.7	15.4	△ 0.7	19.7	18.8	0.9
	(9月20日)	15.0	15.1	△ 0.1	23.0	20.3	2.7
でん粉重 (kg/10a)	(9月20日)	-	-	-	1135	1138	△ 3
上いも数 (個/株)		11.9	10.9	1.0	8.3	8.0	0.3
上いも平均重 (g)		104	109	△ 5	158	187	△ 29
上いも重 (kg/10a)		5462	5227	235	5766	6532	△ 766
同上平年比 (%)		104	100	4	88	100	△ 12
でん粉価 (%)		15.0	15.1	△ 0.1	22.1	20.9	1.2
でん粉重 (kg/10a)		-	-	-	1217	1295	△ 78
同上平年比 (%)		-	-	-	94	100	△ 6

注) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）、令和3年（最豊）を除く5か年の平均

## 6) てんさい

作 況：平年並

月日	作況	事由
5月20日	平年並	<p>移植栽培の播種は、平年より1日早い3月23日に行った。以降、気温が高めに経過したため、育苗期間中の生育は良好であった。移植は平年より1日早い5月2日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は非常に良好であった。5月9日に降霜があったが、枯死する個体はほとんどなかった。その後、5月上旬の気温は低かったが、中旬が極めて高かったため、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並となった。</p> <p>以上のことから、目下の作況は平年並である。</p>
6月20日	やや良	<p>5月下旬は気温が低かったものの、6月上旬以降は平年並以上に推移し、日照時間も6月上旬以降十分であったため、生育が進み、移植栽培、直播栽培とも、すべての項目で平年並あるいは平年を上回っている。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「やや良」である。</p>
7月20日	やや良	<p>6月下旬から7月中旬は、気温が高く日照時間がやや多かったため生育が進み、草丈、生葉数、根重は平年を上回った。一方、降水量が平年よりやや少なかった影響で、移植の茎葉重は平年をやや下回った。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「やや良」である。</p>
8月20日	やや良	<p>7月下旬から8月中旬は、気温が高く、降水量、日照時間が十分であったため生育が進み、すべての項目で平年並あるいは平年を上回った。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「やや良」である。</p>
9月20日	やや良	<p>8月下旬から9月上旬は、気温が高く、降水量、日照時間が十分であったため生育が進み、根中糖分以外のほぼすべての項目で、平年並あるいは平年を上回った。一方、根中糖分は、最低気温が高めに推移したため平年を下回った。</p> <p>以上のことから目下の作況は「やや良」である。</p>
10月20日	平年並	<p>収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。</p> <p>9月下旬から10月中旬の気温はやや高く、降水量はやや多かったため、根部の肥大が進み、根重は平年を上回ったが、根中糖分は7月8月の最低気温が平年より高かったため、平年を下回った。糖量は、移植栽培では平年を下回ったが、直播栽培では平年を上回った。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「平年並」である。</p>

生育データ

調査項目	移植						直播			
	ライエン			アマホマレ			ライエン			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.23	3.24	△ 1	3.23	3.24	△ 1	5.02	5.05	△ 3	
移植期 (月.日)	5.02	5.03	△ 1	5.02	5.03	△ 1	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.12	5.16	△ 4	
収穫期 (月.日)	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.20	△ 2	
草丈 (cm)	(5月20日)	6.0	7.1	△ 1.1	5.9	7.2	△ 1.3	-	-	-
	(6月20日)	23.0	22.3	0.7	26.3	23.9	2.4	21.8	14.1	7.7
	(7月20日)	54.8	51.8	3.0	55.6	54.7	0.9	57.9	49.7	8.2
	(8月20日)	58.8	56.2	2.6	63.7	61.3	2.4	61.8	58.2	3.6
	(9月20日)	59.2	57.3	1.9	66.9	63.7	3.2	62.9	60.1	2.8
生葉数 (枚)	(5月20日)	7.4	6.3	1.1	5.9	5.2	0.7	-	-	-
	(6月20日)	18.6	12.5	6.1	13.9	11.4	2.5	11.6	9.0	2.6
	(7月20日)	24.8	21.4	3.4	24.6	21.0	3.6	22.8	20.1	2.7
	(8月20日)	31.5	26.9	4.6	28.1	25.5	2.6	25.6	26.3	△ 0.7
	(9月20日)	31.6	29.7	1.9	28.0	27.8	0.2	27.7	29.1	△ 1.4
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	1.3	1.2	0.1	1.4	1.3	0.1	-	-	-
	(6月20日)	66	65	1	87	68	19	49	14	35
	(7月20日)	465	531	△ 66	538	578	△ 40	533	411	122
	(8月20日)	780	796	△ 16	923	854	69	856	716	140
	(9月20日)	765	723	42	875	842	33	752	737	15
根重 (g/個体)	(6月20日)	17	16	1	25	17	8	6	1	5
	(7月20日)	282	256	26	280	256	24	251	142	109
	(8月20日)	780	706	74	776	724	52	724	563	161
	(9月20日)	1031	973	58	1000	1004	△ 4	990	853	137
根周 (cm)	(7月20日)	23.2	23.5	△ 0.3	22.9	22.7	0.2	22.6	19.1	3.5
	(8月20日)	34.0	34.0	0.0	33.6	32.2	1.4	34.0	30.6	3.4
	(9月20日)	38.6	37.9	0.7	37.6	37.0	0.6	37.8	35.9	1.9
根中糖分 (%)	(9月20日)	15.62	16.99	△ 1.37	15.93	16.79	△ 0.86	16.60	16.73	△ 0.13
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	5109	5410	△ 301	5164	5873	△ 709	5105	5185	△ 80
根重(kg/10a)	(収穫期)	7945	7514	431	7221	7024	197	7649	6382	1267
同上平年比 (%)		106	100	6	103	100	3	120	100	20
根中糖分 (%)	(収穫期)	16.42	18.34	△ 1.92	16.99	18.74	△ 1.75	17.27	18.54	△ 1.27
同上平年比 (%)		90	100	△ 10	91	100	△ 9	93	100	△ 7
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1304	1377	△ 73	1227	1316	△ 89	1320	1182	138
同上平年比 (%)		95	100	△ 5	93	100	△ 7	112	100	12

注1) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)令和5年(最凶)を除く5か年の平均。

## 7) 牧草 (チモシー)

作 況 : 良

月日	作況	事由
5月20日	良	萌芽期は平年より1日早い4月16日で、冬損は認められなかった。萌芽後の平均気温は5月上旬を除いて平年より高く経過し、4月下旬の日照時間は平年より短かったが、生育は順調であった。5月20日現在の草丈は平年より12cm高い55cmであり、被度は100%であった。以上のことから、目下の作況は「良」である。
6月20日	やや良	1番草の収穫は平年より4日早い6月12日に行った。5月下旬は低温であったものの降水量が多く、6月上旬は気温が平年並で日照時間がやや多かったことから、1番草の出穂始および出穂期はそれぞれ平年より2-3日早い6月7日および6月12日であり、乾物収量は平年比109%であった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	やや良	1番草収穫後の平均気温は、6月下旬から7月中旬まで平年より高く推移した。降水量が少なかったことから2番草再生時の草丈は平年より5cm低かったものの生育は順調である。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	良	2番草の収穫は平年より3日早い8月1日に行った。1番草収穫後の平均気温は並〜高く経過し、7月下旬から8月上旬の降水量が極めて多かったことから、2番草の草丈が平年より8cm低い一方で、乾物収量は平年比140%と多く、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比117%であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
9月20日	良	2番草刈取り以降(8月下旬〜9月中旬)の平均気温は平年に比べ高く、日照時間はやや多かった。3番草の再生時の草丈は平年より5cm高く、再生は順調である。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
10月20日	良	3番草の収穫は平年より2日早い10月1日に行った。3番草再生時の草丈は平年並の40cmであったが、乾物収量は平年より36%多い177kg/10aであり、1〜3番草の合計乾物収量は平年比120%と多収であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。

生育データ

品種名 調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4.16	4.17	△ 1
冬損程度		1.0	1.0	0.0
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月. 日)		6.07	6.10	△ 3
出穂期 (月. 日)		6.12	6.14	△ 2
出穂程度	1番草	6.0	7.0	△ 1.0
節間伸長程度	2番草	4.0	4.0	0
収穫日	1番草	6.12	6.16	△ 4
	2番草	8.01	8.04	△ 3
	3番草	10.01	10.03	△ 2
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0
	2番草	2.6	2.0	0.6
	3番草	2.8	3.0	△ 0.2
草丈(cm)	(5月20日)	55	43	12
	(6月5日)	82	79	3
	1番草	98	99	△ 1
	2番草再生時	32	37	△ 5
	2番草	52	60	△ 8
	3番草再生時	40	35	5
生草収量 (kg/10a)	3番草	40	38	2
	1番草	2,588	2,425	163
	2番草	914	687	227
	1+2番草計	3,502	3,112	390
	3番草	564	457	107
乾物率 (%)	合計	4,066	3,570	496
	1番草	23.2	23.0	0.2
	2番草	28.7	29.0	△ 0.3
乾物収量 (kg/10a)	3番草	31.3	29.0	2.3
	1番草	601	553	48
	同上平年比 (%)	109	100	9
	2番草	263	188	75
	同上平年比 (%)	140	100	40
	1+2番草計	864	741	123
	同上平年比 (%)	117	100	17
	3番草	177	130	47
	同上平年比 (%)	136	100	36
合計	1,041	870	171	
同上平年比 (%)	120	100	20	

注1) 平年値は前7か年のうち令和4年(最豊)、令和5年(最凶)を除いた前5か年の平均値。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。